

上越ケーブルビジョン

平成 25 年度 第 2 回番組審議会 議事録

日時：平成 26 年 2 月 20 日（木）17：00～

場所：JCV 2F 会議室

出席者 ○中川周一 委員長 ○池田弘 委員 ○平澤則子 委員 ○西村俊夫 委員
○品川久美子 委員 ○小出佳子委員（遅れて出席）
（上越ケーブルビジョン）
○丸田健一 ○山岸潤（事務局）

(1) レギュラー番組について

- ・「MJいんふおめーしょん」（市民伝言板・スマイルオンエア）
- ・JCVスペシャル

(意見)

- ・新井北小の子どもたちが、MJに出演し市内でひらかれるイベントのPRをした。緊張したが良い体験だったと聞いている。参加型の番組を作るということは、見てもらえる、親しみが出る、こういった仕組みは良い。
- ・番組を見ていると、いろいろな風に番組を利用できると思う。看護大では、健康や福祉に関するいろいろなことをしているので、一歩進んで市民の健康への貢献など1分2分のPRをしたらおもしろいのかなと思う。
- ・番組の雰囲気がとても良い。良い企画、良い番組と思う。市民目線、市民の生活に密着した番組はすばらしい。スマイルオンエアは、リピーターもいるとのことだが、番組を録画して子どもの成長記録を見るという使い方は予想外。こういったところに新しい可能性があるのではないかと。学校とのつながり、授業づくりにも関連できるだろうし、新しい方向性、可能性がある。継続していただきたい。市民は作り手の想像を超えたところで番組の使い方を見つけそうだという感想。
- ・青年会議所や商工会議所、NPOの事業などこういった番組で市民の皆さんに知ってもらえるのはありがたいと思う。JCVスペシャルは、見に行けなかった謙信公祭、高高祭を放送で見ることができた。小中合同音楽祭は、子どもと一緒に見て、振り返るいい機会になる。スケジューリングなど大変だと思うが続けてもらいたい。
- ・JCVと視聴者の接する市民参加型の番組があり、出演の機会を増やしたいのであれば、番組出演に至るまでの敷居を下げ、出たい人が出られるような、ホームページを見なくても出演依頼ができるようなわかりやすさや工夫が必要。
- ・JCV FanにMJの出演募集がない。Fanに掲載してはどうか。
- ・以前職員がイベントのPRで出演させてもらったが、かなり緊張したようだ。アナウンサーの方に、だいぶ緊張をほぐしてもらったようだ。
- ・JCVスペシャルは、園や学校関係者・保護者には大変魅力的な番組構成です。音楽祭等、当日はその場で音楽を聴くことに専念し、JCVの放送でビデオ化するという保護者の声もあります。今後も一層の充実をお願いします。
- ・視聴者とより接点を持ちたいということですので、さらなる工夫をお願いしたい。

(2) 冬の特別番組の取組について

- ・北陸新幹線試験走行列車イーストアイ歓迎セレモニー生中継

(意見)

- ・見ていて元気が出る。JCVならではの生中継。

(質問)

- ・車窓からの映像は難しい？

(回答)

- ・北陸新幹線を走る新しい営業車両E7系の試乗会があり、そちらには乗車して取材した。3月15日に営業車両として運行始まるが、現在のところ、乗車取材はできないと連絡をもらっている。ホームからになる。

(意見)

- ・セレモニーに参加した市民の方にインタビューするのはいい。イーストアイの中から手を振ってもらってうれしいというエピソードもいい。全国ニュースで扱われることも大事だが、もう少し踏み込んで市民が知りたいことを出せるのはいい。市民の関心をますます引き出すためには、難しいとは思いますが、新幹線に乗車してのレポートなど一歩踏み込んでやってほしい。
- ・VTRを見ると、行った気分になれる。新幹線が来るという高揚感が出る。
- ・北陸新幹線開業には、地元の期待もさることながら、利用者の半数を占めるとされる首都圏のサラリーマンの期待も高いようだ。取材費はかかると思うが、新橋や有楽町、東京駅などでインタビューして、地元の様子と合わせて放映する。北陸新幹線のことなど、首都圏のサラリーマンがどう見ているのか。

・レルヒ祭前夜祭生中継

(意見)

- ・レルヒ祭本祭への誘導が目的の一つということだが、誘導効果はあると思う。大変だろうが、生中継ならではの工夫をこらして、続けてほしい。
- ・十日町の雪まつりと一緒に、冬の雪の中で市民が活発に活動している様子を伝えていくと、雪もいいものだと思うてくる。
- ・オリンピックの清水礼留飛選手の効果もあるだろうから、この生中継はいい。
- ・北陸新幹線開通について、遠くから来た人に上越妙高駅で降りてもらうことが大きな課題。降りてもらうためには、こういったイベントは直接関わってくる。実際見たことはなかったが、前夜祭に何をしているのかわかっていい。花火やパフォーマンスには人をひきつける魅力がある。幻想的でいい。こういったイベントを生中継することで広めていく大切な役割があると思う。
- ・上越のまつりは、春の観桜会が終わるとあまり目立つものがないといわれている。そのような視点ではレルヒ祭の生中継はいいと思う。
- ・寒い時期でもあるので会場までは足が向きませんでした。映像でたっぷり楽しませてもらいました。ライブ等は会場の盛り上がり画面からも伝わってきて臨場感をもつことができました。上越でもこれだけ熱い人たちがいるのだとうれしくも感じました。
- ・先日の地域の方と会合の中で「ライブ番組はかかさずずっとテレビをつけたままにして家の仕事をしている」という熟年の方がおられました。みんなと一緒に動いて楽しむことはできないけれども雰囲気だけはねと言っておられました。こういうファンも多いかと思いました。

・上越フットサル選手権大会生中継

(質問)

- ・リージョンプラザのインドアスタジアムで中継するとのことだが、明るさはどうしているのか？

(回答)

- ・試合中は、リージョンプラザの照明のみでやっている。インタビューの時はライトキットを立てている。カメラで明るさをあげようとすると、映像が荒くなってしまう。

(質問)

- ・ゴールシーンのスロー再生は技術的に難しい？

(回答)

- ・専用のソフトが必要。スポーツ中継の怖さは、視聴者がさまざまなスポーツ中継に見慣れているため要求が高

い。現段階ではスポーツ中継の数が少ないので、回数を重ねていった段階で考えたい。

(質問)

- ・リプレイ映像も難しい？

(回答)

- ・番組中にすぐリプレイするというのは難しい。バスケットボールのBJリーグを生中継した時は、リプレイ用の装置のデモ機を借りてやった。

(質問)

- ・フットサルは、画になりやすい？撮りやすいのですか？

(回答)

サッカーよりはコートが狭いので撮りやすい。カメラの台数も少なくてすむ。プロのサッカーの試合は、カメラが何台もあり、ゴール裏にクレーンのカメラがある。視聴者はああいったシーンに見慣れている。

(意見)

フットサルの生中継を足がかりに、さらに上を目指し、楽しめる番組作りをしてほしい。

(3)「その他」

- ・4月からの取組について

(事務局)

コミチャンの方向性、担当分野ごとのスタッフ割振り、情報収集体制の拡充、
ジェイミータッチ（地域情報カメラ、生活情報、除雪情報）、
モバイル端末への情報配信、無線伝送装置を使った生中継の実施、
4月から変わる番組（ニュース番組、生活情報番組）、
春の公開講座 などについて説明

(質問)

- ・はすまつりの生中継はないのか？

(回答)

- ・はすまつり期間中に高田公園でおこなわれるオクトーバーフェストについては、つばめステーションのなかで、現場から生中継している。一から中継をつくりあげるところまでいっていない。大きなイベントを中継することが多い。その意味では、はすまつりでの生中継はまだ実施には至っていない。オクトーバーフェストは夕方からはじまるため、ニュースでの生中継にちょうど良い。

(質問)

- ・オリンピックメダリストの葛西選手や清水選手が出演するサマージャンプ大会は、中継できないのか？

(回答)

- ・無線伝送装置は本社との見通しがきくところでないといけない。会場の近くまで光ケーブルがいていけば、インターネットを使った中継もできるが、そういった設備も現在はない。サマージャンプ大会のほか、冬の時期は、さまざまなウィンタースポーツの大会があり実施の検討はしているが、まだまだ中継には技術的に課題がある。

- ・(意見)

- ・昨秋の妙高市での川の決壊時の放送は大変助かりました。取材も命がけで大変だと思いますが、ほしい情報が得られることは、非常時には本当にありがたいことです。大変だと思いますが今後もお願いしたいです。

- ・番組も多様で工夫されてきていると思います。いかにチャンネルを合わせてもらうかを今後は工夫していくことが大事かと思っています。人が集まるところにモニターテレビの設置などはどうでしょうか。